姶良・伊佐教育事務所だより
緑の教育
令和８年11月号
TEL：0995-63-8137
E-mail：airaisa-shido@pref.kagoshima.lg.jp
緑の自然のごとく あしたをひらく豊かな心　緑の若葉のごとく あしたを創る確かな学力　緑の大樹のごとく あしたを担うたくましい身体

「児童生徒主体の教育活動」を目指すⅡ

所長　平原　金智

夏休みに、理科の研究記録（自由研究）に取り組む児童生徒は多くいます。先日、霧島市役所のギャラリーに展示してあった優秀作品を見ながら、「よく頑張ったね」と、陰ながらエールを贈りました。私自身、これまで多くの子供たちと研究記録に取り組んできましたが、最も難しいのはテーマを決めることです。身近な自然事象（事物・現象）の中に「なぜ」「どうして」を見いだすこと、それを解決するための見通しを立てることは、かなり難しいことのようです。悩んだ挙句、本屋やネット上にある「自由研究テーマ集」からテーマを選んでくる子供もいますが、自分で見つけた素朴な疑問や自らの好奇心から生じたテーマには到底、及ぶものではありません。例えば、水泳に打ち込む男子生徒は「プールのセンターコースは、端のコースより泳ぎやすいのではないか」という問いを追究しました。幼いころから虫に興味がある女子生徒は「ダンゴムシは障害物を避けてジグザグに進むらしい。エサや仕掛けで誘惑してもジグザグに進むのか」という好奇心から何十匹ものダンゴムシに自作の迷路を歩かせました。科学的な研究論文ではないので、結論が間違っていたとしても問題はないと私は思います。大切なことは、自らの問いや好奇心から生じた課題を解決するために科学的に調べていくこと。論理的に結論を導き出すことです。一言で言えば「探究の過程を学び、経験すること」。私は、ここに学びの原点があり、学習者主体の授業の本質が見えると考えています。

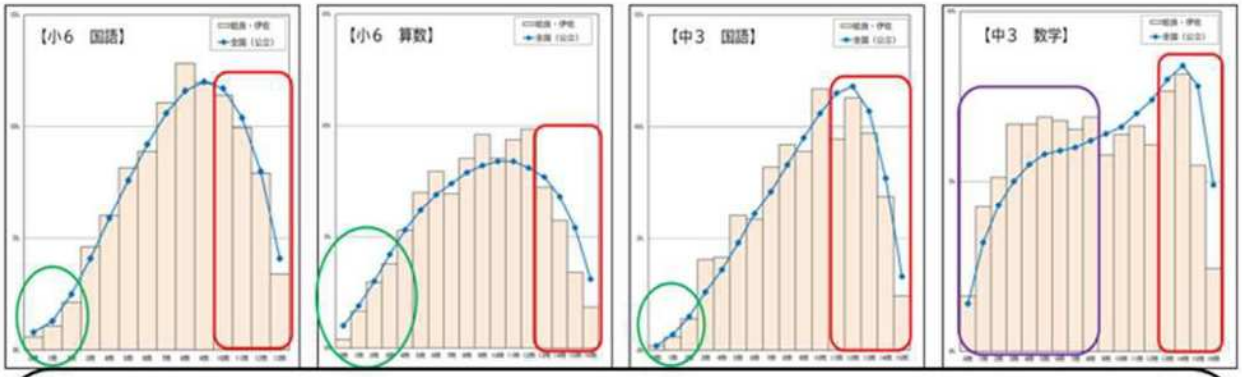
今、学校は学習者主体の授業の充実を図るため、児童生徒自ら問いを発見させるための工夫に特に重きを置いています。単に問いや課題を与えるだけでは、問題意識や目的意識、学習意欲が持続しないことを実感しているからだと思います。これからの社会を表す言葉は「混迷」「予測困難」です。そのような時代を生きていく子供たちには、様々な情報や変化を鵜呑みにすることなく、主体的に問題を発見・解決する力を身に付けさせておかなければなりません。授業のみならず、児童生徒主体の教育活動の必要性は、これまで以上に高まっています。

先日、本地区小学校３年生の投稿を目にしました。「どうして雨が降るのか不思議に思い、お父さんに聞いてみました。お父さんは「海や川などの水が蒸発し、蒸発した水を含んだ空気が冷やされて雲ができること」「その水滴が落ちてきて雨になること」を教えてくれました。それからお父さんとペットボトルに水を入れて、ドライヤーで温めたり、冷凍庫で冷やしたりして雨が降る仕組みを確かめました。自然には、私の知らない不思議がたくさんあるな。」おおよそ、このような内容でした。「もうこの子は、くじら雲に乗れないことを分かってしまったな」と思う反面、「このお父さんは、日頃から「雷の音はどうして後から聞こえるの」といったような意図的な声掛けをしていて、この子は既に問いを見つけ、解決することの楽しさを知っているのだな」と思いました。

問題を発見することや知的な好奇心は、経験を積み重ねて培われる感性のようなものだと思います。自ら問いを発見することは難しいからといって、ＡＩに聞けば、問い自体を教えてくれる世の中だからこそ、学校でも家庭でもこの感性を培う機会を増やしていかなければならないと思います。雨が降ることも空が青いことも当たり前、そんな当たり前のことを不思議と思える感性を備えた子供たちを育てていかなければなりません。でなければ、某テレビ番組の有名キャラクターに叱られてしまいます。

令和８年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善

令和８年度全国学力・学習状況調査結果（姶良・伊佐地区　正答数分布グラフから）



○　下位層（緑枠で囲んでいる部分）の割合は、全国より少ない。（小６国語・算数、中３国語）
→　学習上の課題がある児童生徒へのきめ細かな支援の成果が伺える。

○　上位層（赤枠で囲んでいる部分）への引き上げが課題である。
→　学習内容の定着に向けた支援の充実に加え、学習内容を十分に理解している児童生徒の力をさらに伸ばすための授業改善が重要である。

「習得」と「活用」

○　各学年の学習内容を確実に定着させ、次の学びにつなぐ（算数・数学）
→　算数・数学は学習内容の系統性が強く、一つのつまずきが、その後の学習にも影響する。ドリル等を活用した定着の時間を確保し、各学年の学習内容を確実に定着させることが重要である。今の学びを確かなものにすることが、子供たちのこれからの学びを支える。

○　記述式問題から見えること（中３数学）
→　説明・証明・解決方法の記述において、無解答率が高く、自分の考えを表現することや、粘り強く問題に取り組むことに課題が見られる。

≪無解答の背景は？（例）≫
・見通しの不足（何をすればよいか分からない）
・読み取りの困難さ（図表や文章から必要な情報を読み取り、整理できない）
・表現経験の不足（どのように表現すればよいか分からない）

分析・実態に応じた授業改善の具体策につなげる！！

令和８年度　フォローアップ講座in錦江小

姶良市立錦江小学校で８月７日に行われました。

講座に対する満足度はほぼすべての項目で「４(満足)」または「３(概ね満足)」！！
未経験やブランクのある参加者にとって、精神的な障壁を取り除く極めて有意義な機会となりました。





１　講話「学校の現状について」

・「保護者視点」から「教師視点」へと意識を切り替える良いきっかけとなった。
・漠然としていた学校に対する不安が和らいだ。
・「失敗しても大丈夫」「子供に寄り添って成長を見守る」という前向きな気持ちになれた。



２　教員になって思うこと

・先輩教員のリアルな体験談に「一歩を踏み出す勇気」が出た。
・講師として現在の指導で良いか不安だったが話を聞いて安心した
・教師として一生懸命努力している様子が伝わり、とても感動した。



３　模擬授業体験



・自分が受けてきた授業と違い、子供に考えさせ、発言させる難しさとやりがいを実感できた。
・「理科や社会の授業も受けたかった。」「道徳の授業の流れをもっと知りたかった」等、様々な教科を学びたいという声もあがった。

４　全体を通して

・迷っていたが、参加して本当によかった。
・実際に授業を受け、貴重な話をたくさん聞くことができた。
・教職の仕事の理解や多様な価値観を深めることができた。
・まだ、分からないこともあるが、少しずつでも前に向かいたい。
・給与面や採用に至るまでの経緯等を聞けて、前向きに考えたいと思った。

今後も、人を育てる教員という仕事のすばらしさを伝えていきます！！

令和８年度地区研究協力校の「今」　　研究に終わりなし

学校名	研究領域（教科等）	公開日	研究協力校の今
姶良市立 柁城小学校	学力向上 （授業研究研修）	令和９年 ２月10日	「自立した学び手」を育てるためには自己調整力の育成が必要であると考え、教科の特質を踏まえた、複数教科同時進行型の単元内自由進度学習などに取り組んでいます。単元の導入（ガイダンス）と個人課題追究の時間を公開します。
霧島市立 青葉小学校	学力向上 （授業研究研修）	令和８年 11月25日	生徒指導の４つの視点を基にした「青葉っ子ミッション」（授業で目指す姿）を学級ごとに教児で話し合って設定しました。学習指導と生徒指導の一体化により、授業での心理的安定が図られ、子供たちの「学びに向かう姿」が育ってきています。
伊佐市立 菱刈中学校	道徳教育	令和８年 ６月30日	研修会を経て、生徒たちは他者の発言を尊重しながら自分の考えを深め、多角的に議論できるようになりました。自分自身の生き方や価値観を主体的に見つめ直す姿勢が着実に身に付いてきています。
伊佐市立 曽木小学校	道徳教育	令和８年 ６月26日	研修会後も、道徳科を中心に、心の揺れの可視化や対話、振り返りを通して考えを広げ、深める授業に継続して取り組んでいます。引き続き、子供が自分事として捉え、多面的・多角的に考えを深められる発問を工夫することに取り組んでいます。

初任者が授業づくりで悩んでいることベスト3　（初任者の声（アンケート）から）

初任者研修（研究授業研修）で、授業について悩んでいることを聞きました。

小・中学校で共通して多い悩み　ベスト3

1. 子供たちの主体的な学びを引き出すことが難しい
   - 子供たちに自ら考え、学ぶ意欲をもたせたいが、できていない。
   - 子供が『自分事』として学習に向かう姿勢を促す工夫に苦心しています。
2. 効果的な【発問】の工夫が分からない
   - 子供の考えを深めたり、多面的に捉えたりさせる発問が難しい。
   - 発問が知識の確認止まり、または簡単すぎて深い思考につながらない。
3. 協働学習やグループでの課題解決がうまくいかない
   - グループ学習で意見交換がスムーズにいかず、雑談が増えてしまう。
   - 話合いを深めるための場面設定や進行の進め方に悩んでいます。

これらのことは、授業の核心とも言えます。初任者の課題として捉えるだけでなく、学校全体の課題として捉え、初任者を支えていきましょう。

『業務改善の推進』　みんなの声でつくる業務改善

令和８年度業務改善実施校モデル事業の指定を受けた霧島市立天降川小学校では、７月21日（火）に、「先生の幸せ研究所」の庄司先生を講師としてお招きし、業務改善をテーマとしたワークショップ型研修会を実施しました。

研修では、教職員がグループごとに業務改善に関する課題や改善策について自由に意見交換を行い、その内容を広幅用紙にまとめて全体で発表するなど、教職員が主体的かつ意欲的に参加することができました。業務改善に向けた具体的なアイデアを共有するとともに、教職員一人一人の業務改善に対する意識を高める有意義な機会となりました。

なお、研修で出された意見の一部については、早速実践しています。



みんなで意見を出し合いました。

10月から早速実践していること
- 開門時刻を7時45分とする取組
- サマータイム制試行の導入

今後も、研修で出された意見を基に取組内容を精査しながら業務改善を推進し、教職員の働きやすい環境づくりとともに、子供たちと向き合う時間の更なる確保につなげていこうと考えています。



全職員で考える姿が印象的でした。

本地区においては、今後も、各学校における業務改善が進むように、市町教育委員会と協力しながら取り組んでいきます。

人　権　週　間

12月４日～12月10日　人権週間

1948年12月10日、国際連合において「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、定められました。

人権とは・・・

「誰もが幸せに生きるために生まれながらにもっている大切な権利」です。

身の回りにある人権課題の例

いじめ、児童虐待、差別や偏見、インターネット上での誹謗中傷など、解決すべき多くの人権課題があります。

各学校では・・・

子供たちが互いの違いを認め合い、大切にし合える豊かな心を育むための教育を推進していきます。

家庭や地域でも・・・

人権週間を契機に、身近なところにある人権について改めて話し合い、「『誰かのこと』ではない。」という意識を強くもてるようにしましょう。

誰もが**笑顔**で過ごせる社会をともに！！

「誰かのこと」ではない。

危機管理マニュアル

SNSに起因する犯罪、性犯罪・性暴力への対応等

特にSNSに起因する犯罪

- 不適切動画や写真の送信
- 誹謗中傷
- なりすまし
- 性犯罪・性暴力

１　最新事例の把握

インターネット上の犯罪被害を未然に防止するため、年度初めに、文科省や警察庁などのウェブサイトを中心に最新事例や統計情報などを入手し、児童への指導に反映する。

２　家庭との連携

毎年○月を重点期間とするなど、家庭でのスマートフォンやタブレットを用いたゲームやＳＮＳの利用について、児童と保護者で話し合ってルールを策定し、実際にルールを守る取組を推進する。ＩＣＴ機器の利用は低年齢化していることから、低学年のうちからこの取組を進めることとする。

子供を守るために、家庭で話し合い、ルールを作ろう

我が家のルールの例

- フィルタリング設定
- 使う場所、時間、目的、内容

そもそも持つ必要はあるのか

被害者にも　加害者にも　させないために

学校支援専門官　学校探訪 ～訪問で感じた学校のよさと教育への思い～

5つの合言葉「①全校訪問②各学校の特色ある教育活動を知る③児童生徒の学校生活を直接見る④学校の困り感の解決・支援策を提示する⑤過去の事故や事案を紹介して未然防止に努めてもらう」の下、本地区の児童生徒が活躍できるように、それを支える教職員の方々がやりがいをもって教育活動に取り組めるように応援をし続けることが「私の目標」です。

整然とした空き教室

生徒が不在の空き教室。おそらく体育の授業かな。机の上にはサブバックが整然と置かれており、ゴミが一つも床に落ちていない。授業の約束なのだろうと感心した。

かかとがそろう教室

靴箱は学校の玄関、かかとがそろった状態の靴200足余りが靴箱におさまっている。はみ出ていたり、かかとを踏んだりした靴が一足も見当たらない。きっと家庭と学校の約束事の実践で、家の玄関も整然としているのだろう。

見返りを求めないあいさつ

車で敷地内に入り、下校時の子供たちとすれ違う。初めて車に向かってあいさつを受けた。慌てて窓をあけてあいさつを返す。いつでも、どこでも、誰にでも、見返りを求めないあいさつの本来のよさを児童に先生方が語っているのだろう。

全力で走り、学年を超えて応援

体育大会の徒競走、一人としていい加減に走っている子供はいない。全員リレー、走力に個人差はあるが、学年に関係なく必死で応援する生徒たちの光景に、つい目が向いてしまう。その心を大切にもち続けてほしいと願う。今も昔も熱くなる光景は変わらない。

地域とともに歩む学校

土曜日に運動会を計画できない。理由は保護者の生活がかかっているから。なるほど、地域の中の学校、学校側の想いだけでは学校経営はできない。学校の中心は子供たちとその保護者、先生方にとっては苦渋の選択なのだろう。コミュニティスクールの大切さ、地域とともに歩む学校づくりを学んだ。

生徒会がつなぐよき伝統

何度訪問しても正門から玄関までの砂利に凹凸がなく平らにならされていて、気持ちがよい。聞けば生徒会の伝統とのこと。学校のよき伝統は後輩たちに引き継がれていく。すべての訪問者は気持ちよさをきっと味わっているのだろう。学校の伝統を聞くことが訪問時の楽しみの一つになった。

「やっぱり学校は、いい場所だ」と笑顔で学校を後にします。

シリーズ！姶良・伊佐教育事務所員が紹介する　私の元気の出る言葉㉓

「今日を乗り切ったあなたなら、明日はきっともう少し上手に笑えますよ」

これまで幾度となく「人の言葉」に救われてきた。同僚の「お疲れ様」、「ありがとう」という一言や、ふとした会話で交わす笑顔。人の温もりや絆は、この仕事を支える大切な原動力だと感じている。

そんな日々の忙しさの合間にふと一息つき、手元の携帯を眺めながら、なにげなく生成AIへそっと打ち込んでみた。「今日の私を元気づける言葉を教えて」。

味気ない返答を予想していたのだが、画面に現れたのは、「今日を乗り切ったあなたなら、明日はきっともう少し上手に笑えますよ」という一文だった。どこか硬くなっていたかもしれない自分の顔に、思わず気付かされた。

心を通わせる温もりは、人だからこそ生み出せる。しかし、明日に向かう心をそっと軽くしてくれるAIの言葉も、どうしてなかなか捨てたものではない。人の温もりを大切に受け止めながら、新しい技術とも時にしなやかに付き合いつつ、明日もまた歩みを進めていきたい。　　（M.N）